

月刊「Sweet Orange」紙上に掲載されたグリーメンバーによる随想・随筆を掲載します。

## Sweet Orange 紙 2016年5月号掲載

LA Men's Glee Club 土田三郎

### 「美しき国哉」

天から与えられた恵まれた四季があり、山や海の幸に恵まれた美味しい食材が豊富にある自然の美しい国。人々は、おもてなしの心に溢れ、勤勉、繊細、独創的で、世界でも最も自由な生活を営んでいる素晴らしい国。自然による厳しい災害があるが、人々は自然に溶け込みながら創造的に生きる国。そんな国が日本ではないだろうか。

歴史を顧みながら日本を異国から見ると、日本は素晴らしい文化を持っていることが解る。それが国の発展を支えている。考えてみれば、そこで生まれ育った私たちは、天から与えられた素晴らしい環境の中で、世界でも稀な資質を与えられていると思う。

天や自然を敬い、礼節を尊び、慈悲の心で助けあい、勤勉に働くことが人の最高の徳となる。これが生活の知恵となり、日本の文化となる。その心が各地の伝承物語となり、音楽や民謡、歌となっている。音楽や歌は、文化の心を表現する。そして幸福を呼ぶのだ。

気がついてみたら、いつの間にか口ずさんでいる歌が自分の潜在意識から出てきて、熱しみと幸せの思いとなる。私が日本の歌を合唱するとさは、心に響くそんな日本人の心が自分にあることに感動しながら歌う。そして、日本人であることに感謝している。

土田三郎  
L.A. Men's Glee Club  
([www.laglee.org](http://www.laglee.org))

練習の見学を歓迎します。



Sweet Orange 紙 2016年4月号掲載  
LA Men's Glee Club 齊藤泰

Sweet Orange April 2016

音楽は世界共通のことば

久しぶりに南米クルーズに行きました。  
チリーの港から南米最南端のケープホーンを通過してブエノスアイレスまで2週間の船旅。  
乗船後、部屋でくつろぎ、あらかじめ配布されたニュースレターで、これからの催しに目を通します。その中で「The Sound of Music Pop Choir Sign-up and Rehearsal」に目がとまりました。30カ国に及ぶ国籍のお客さんから希望者をつのって、ミュージカル「The Sound of Music」を練習して、舞台上で歌いましょうという企画。

早速、練習会場に出かけました。指導はエンタテイナー部の若者。男性が十数人。子供を交えた女性二十数人で練習が始まりました。手足の柔軟体操から始めるのは、わたし達「LAメンズグリークラブ」と同じ。  
未だお互い打ち解けない中で、国籍11カ国の合唱団の音だしが始まります。左隣はニューオーリンズから来た器楽合奏団の指揮者。当然ながら音感はずっぴり。これ幸いと、よく判らない部分は左耳を澄まして聴きながら歌いました。ところが右隣の男性は、遂に始めから終わりまで楽譜に関係なく唯我独尊の音階。あいだに居る私にとっては難しい立ち居地でした。  
下船前日よいよ本番。チョットおしやれに着飾って、「The Sound of Music」をはじめ「ドレミの歌」などを、三階吹き抜けのロビーで披露しました。少し緊張気味のタキシード殿も、ロビー鈴なりの観客からヤンヤの拍手喝采を浴びるとリラックス。味をしめたわたし達は、あらかじめ打ち合わせどおりアンコール曲「エーデルワイズ」を歌って終わりました。左隣の指揮者殿も右隣の変な音程殿も大満足。11カ国の出演者どうしお互いに握手したり抱き合ったり別れを惜しまました。合唱を通じて心が一つに成った瞬間を体験出来た私にとって、音楽は世界共通のことばを実感し、心から参加してよかったと思いました。



齊藤泰  
LAメンズグリークラブ  
www.laglee.org



Sweet Orange March 2016

### 「合唱と読経」

私の実家は、山形県酒田市郊外の農村にあります。冬には、猛烈な吹雪が地面から吹き上げます。厳しい冬を越すため、自然に逆らわずにお互いに助け合うことが、人々の生活の知恵です。冠婚葬祭も、檀家の一致協力が欠かせません。

実家は曹洞宗の檀家です。時節には、眩い袈裟を羽織るお坊さんが、時には数人で仏壇前に鎮座します。右に木魚、左にリンを配置し、姿勢と呼吸を整えて礼をし、厳かに読経を唱え始めます。

「妙法蓮華経観世音菩薩〜〜〜」



天から響いてくる荘厳な読経の唱え、木魚のリズミカルな打音、リンの高い響きが流れるように交差し、子供の私を刺激します。数人の読経は、美しい合唱となり、快い響きになります。袈裟からは後光が現れ、線香の香が身体を包みます。

子供の私は、読経が好きでした。時間があると風呂敷を袈裟代わりにして仏壇の前に鎮座し、お坊さんのマネをしておりました。

今、私は男声合唱を楽しんでいます。読経には、合唱に通じる「響きの和」の心があるように思っています。この読経と合唱の和の心が、遥か彼方の天の一点に集約されて、美しい融合界になるように感じています。これは天国でしょうか。

土田三郎 LA Men's Glee Club [www.laglee.org](http://www.laglee.org)

合唱練習の見学を歓迎します。



Sweet Orange 紙 2016年2月号掲載  
LA Men's Glee Club 齋藤 泰

Sweet Orange February 2016

随筆

No. 1

## 「余白」と「間」について

書道を少しがじっているので、「余白」と言う言葉には、いつも関心を持っている。真っ白な紙面の上に、効果的に余白が配置されているとき初めて、書は生きてくる。

「余白」は、日本人にとって日々の生活の中にも息づいている。

例えば、ディズニーランドやユニバーサルスタジオと、京都のお寺などを比較してみればすぐに判る。所狭しと徹底的に楽しませてくれる前者と、広い空間の中に有って、心が解き放たれたような気持ちになるのは、簡素な空間を追い求め余情を感じさせる後者である。日本のある建築家は次のように述べている。建築にとっての美しさとは、外形の美しさはあるけれど、それ以上に重要なのは空間の美ですと。

余白という広がりやを別の時間軸で切り取れば、「間」と言えるだろう。

わたし達LAメンズグリークラブの先生、竹下圭子さんは次のように五線譜上の休止符について述べている。「五線譜のうえの音符に従って歌うのが合唱ですが、休符の大切さも自覚してください。音は流れていない休符部分の一瞬の沈黙でも、音楽は続いているのです」

皆さんもどうぞ合唱の楽しみのなかで「余白」「間」を味わって見てください。

Yasushi Saito LA Men's Glee Club [www.laglee.org](http://www.laglee.org)



郡山男声合唱団ドンカラック 創立15周年記念演奏会  
～ご声援ありがとうございました～  
2015年3月14日(土) 郡山文化センター 中ホール

随筆 No. 2

歌で結ぶ東北との絆

今年3月、われわれ「LA.メンズグリークラブ」男声合唱団は福島県郡山の 男声合唱団「ドンカラック」(呑歌楽) 創立15周年記念演奏会に招かれ、総勢25名ほどで郡山を訪れ、「ドンカラック」の皆さんと一緒に合唱する機会を得ました。会場の郡山市民文化センター一杯のお客様の前に、郡山の合唱団の皆様と力いっぱい合唱することで、東北の早期復興を心より願いました。

そして、改めて、歌による東北の復興との絆を強く感じたことでした。

思えば、2011年9月に当地ロスで開催されたグリークラブも会員である南加州系合唱連盟主催の第4回合唱祭に、既に縁故のあった「ドンカラック」も招待し、参加を予定していました。ところが、3月の東日本大震災に見舞われ、練習場所や、一部のメンバーも被害を被り、一度は参加不可能との結論をしたのです。しかし、グリークラブからの粘り強い頑張れ福島\*、頑張れドンカラックの激励と支援、\*力強く復興に向け頑張っている姿をロスの皆さんに歌でお見せして下さいとのメッセージに感動し、再び練習活動を開始、ロスでの合唱祭への参加の決定に至ったのです。

合唱祭後もお互い励ましの連絡を続け、4年後の今年3月、グリークラブの郡山での招待演奏が実現し、友好の絆がますます深まったことを実感しました。

共に歌うことでハーモニーを感じることは、よりよき人生を共有することです。皆さんと一緒にハートに共に行しませんか。

中嶋 剛 LA. Men's Glee Club [www.laglee.org](http://www.laglee.org)

